

令和の オリンピック・ パラリンピックは 何のために —2020のはじまりに—

衆議院議員



柿沢未途

み と 途

柿沢未途プロフィール

- 昭和46年(1971年)1月21日生まれ
江東区立数矢小、麻布中・高、東京大学法学部 卒業
- NHK 記者として長野冬季オリンピック・パラリンピックを取材
都議2期、衆院4期連続当選
- 初当選以来、所属政党の政調会長や幹事長を歴任
- 文藝春秋「日本を元気にする125人」に選ばれる
- 国会質問ナンバーワン議員として知られ、
2019年までの国会質問回数は325回
- NPO 法人による国会質問評価で★★★3つ星議員を4回受賞
- 政治団体「新エネルギー運動」代表として、
RE:100(自然エネルギー100%)の日本をつくるために政策提言中
- 防災士の国会議員としても知られ、
3.11の震災をはじめ被災地に数多く足を運んでいる
- 禅寺修行で自らを見つめ直し、「本来無一物」を座右の銘とする

昨年9月、富岡八幡宮の参道に、印象的な障害者アートの作品を並べました。【深川アートパラ2020 おしゃべりな芸術祭】に向けたテスト展示です。一緒に取り組んでいる福島治・東京工芸大学教授(江東区古石場在住)と。思った以上にステキな光景が神社の境内に広がりました!

「TOKYO!」とIOCのロゲ会長(当時)が読み上げた時の声が忘れられません。7年前のアルゼンチン・ブエノスアイレスのIOC総会でした。

1998年の長野冬季オリンピック・パラリンピックへの道のりを現地でNHK記者として取材しました。20年以上も前の話になります。IOCという組織がどんなものか、開催都市や組織委員会との摩擦や軋轢も見ました。スケート場やボブスレー会場が大会後に「負の遺産」として開催都市にのしかかっていくのも見えました。

一方で、私自身の最も印象に残って、深い感動を覚えたのは、オリンピック以上にパラリンピックでした。しかもパラリンピック本体ではなく「アートパラリンピック」という障害者アートのイベントでした。驚くほど印象的で色彩感覚豊かな障害者アートの作品を善光寺の参道の商店街や街じゅうに飾るというものでした。障害者アートに初めて出会った私は、深い感動を覚えました。2020の東京の街で、富岡八幡宮や深川不動尊といった神社

仏閣を街歩きしながら、街かどで障害者アートに出会い、彼ら・彼女達の非凡な才能や個性を知って頂く。私がかつて味わった感動を、2020年に世界の皆さんにも味わって頂きたいと思っています。

富岡八幡宮の参道でご了解を頂いて試しにテスト展示をやってみました。多くの方々に足を止めて頂き、とても手応えを感じています。

巨大なスポーツイベントを開催するだけでは、たった1回の打上げ花火にすぎません。ハコモノが残っただけではレガシーとして残念すぎます。下町人情のある江東区らしく、誰もが才能や個性を輝かせ、ともに生きる社会をつくり出す。「心のレガシー」をこの街に残したいと思います。オリンピック・パラリンピックはそのためにこそあるはずです。



防災士として、記者として

現場を歩き、 国会で声を上げる

—国会議員は、何をする人ですか—



「柿沢先生のおっしゃるとおりだと思います」(小泉進次郎環境大臣)

「柿沢先生が現場に足を運んでいただき、実地にお話を伺ったご指摘、大変重要であると思っております」(牧原秀樹経産副大臣)

いずれも私の昨年11月の国会質問に対する答弁です。

安倍総理が「桜を見る会」を自分の後援会イベントのように考えて、何千人もの支援者を招いていた事実が国会で追及の的となりました。誰もが信じられない疑わしい説明を政府が強弁し続けたのもあって、今なお問題は収まらないまま新しい年を迎えています。

その間、私自身は、自らが足を運んだ台風被災地の南房総の状況を踏まえた国会質問や、かねてから取り組んできた日本の



ソーラーパネルで停電生活を乗り切った木村優美子さん宅。しめて3万円！

住宅の世界最低の断熱性能の向上のためのアルミサッシにかわる木製サッシの使用拡大の提案といった国会質問にいそしんできました。

都市防災の「死角」

台風被災地への訪問は、議員がよくやる大名行列の視察ではありません。少人数で現場を歩き、現地から得られる教訓や経験を引き出すべく努めてきました。

台風15号では千葉県の広範囲で長期停電が発生し、2週間近くも電気がない生活を強いられました。厳しい残暑の中、停電でエアコンが動かないため、蒸し風呂となった家で熱中症になり、救急搬送されて亡くなる高齢者の方も出ました。

台風19号では、私がかねてから警鐘を鳴らしてきた高層マンションにおける長期停電の問題がついに現実となりました。武蔵小杉のタワーマンションで、停電により、エレベーターは動かない、水も出ない、トイレも流れない、「高層マンション難民」という言葉も生まれました。

私はこれを「都市防災における最大の死角」だと以前から指摘してきました。豊洲のみならず区内全域でマンション住民が多くなっている江東区の私達にとっても他人事では済ませられません。

自然エネルギーが生活の自衛に

一方、長期停電に見舞われた台風被災地の南房総でも、地域全体がブラックアウトする中で、自分の家だけは電力が確保できて助かった、というお宅もありました。それはどんなところだったのか。ソーラーパネルを持っていたお宅です。

里山に家族で暮らしている木村優美子さん。3.11の震災と原発事故で首都圏が計画停電したのを機にソーラーパネルを買いました。ずっと物置にしまったままでしたが、台風で停電が続いている間、家の日当たりの良い窓辺に出しておく、台風一過の残暑の日光がギラギラあたって発電してくれました。それを自動車用バッテリーにつないで蓄電して、スマホの充電やパソコンの電源として使いました。スマホのライトをかざすと夜でも灯りがとれたそうです。

昼半分ほどのソーラーパネルとバッテリーとコンセントで一式3万円。辺り一面が長期停電の中でも、わずか3万円の事前の備えで、東京電力からの送電に頼らずに生活が続けていけたのです。

千葉県匝瑳市では、私がかねてから注目している「農業+自然エネルギー」のソーラーシェアリングの農場が、太陽光発電の電気を周辺住民の皆さんに提供し、スマホの充電ステーションとして開放しました。いわば太陽光発電の自然エネルギーによる「電気の炊き出し」です。困っていたご近所の皆さんが集まってきたといいます。

いざという時に東京電力の送電線が途絶えても、このようにソーラーパネルで自立して発電できる場所があると、災害発生後の生活継続のために最低限の電力が確保できるようになります。

これを衆院災害対策特別委員会で取り上げたところ、出てきたのが冒頭の牧原経産副大臣の答弁でした。おそらくこれから災害による長期停電時の電力確保策として、太陽光発電の施設を電力供給ステーションとして活用する取り組みが本格化するでしょう。

太陽光発電のコストは年々ドラマティックに下がり、しかも極薄でどこにでも装着できて発電コストは2~3円/kWhと世界最安の「ペロブスカイト太陽電池」も開発されています。江東区でも都営住宅や公団住宅、小中学校の屋上や壁面に太陽光パネルを装着すれば、災害時の停電対策としてかなりの力を発揮するのではないのでしょうか。

被災地を助ける【アシスト瓦】

南房総の被災地へは、私達ができる支援として、強風で吹き飛ばされた屋根瓦にか

わって、段ボールと防水シートでつくれる【アシスト瓦】をみんなで作って被災地に届ける活動が江東区で展開されました。

八百屋さんやスーパーからももらった段ボール箱をカットして、防水シートでくるんでテープで止めるだけの作業ですから、誰にでもできます。これを屋根に敷きつめると1~2年は屋根防水の役割を果たせるそうです。

人が人を呼んで、若い人も高齢者も、みんなが製作に参加されて、11月までにおそらく全国一の枚数となる計5000枚の【アシスト瓦】が完成しました。区内の小学校の子供達も被災地を励ますメッセージやかわいい絵を表面に描いてくれました。

南房総の現地に届けたところ、すごい枚数でびっくりしていました。下町の熱い心意気が南房総の被災地に届いたのです！

防災士の国会議員として、そして記者出身の政治家として、つねに現場を歩き、そこで見たものを国会に届け、自分の頭で考えて、国会質問にしています。永田町に閉じこもって権力ゲームだけやっていたのでは、国民から遊離した政治になるばかりです。これからも自らの指針をもって政治活動を続けていきたいと思ひます。



柿沢未途は、 国会議員在職10周年を 迎えました



2009年の衆院選で奇跡のような初当選を果たして以来、山あり谷あり、4期10年を務めてくる事ができました。ドラマティックと言えなくもないですが、いくたの死線をかいくぐり、

ご支援くださる方々にも少なからずご心配をかけてきたと思います。この間、あきらめず、見捨てず、私にお力を与えてくださった皆様には感謝の一語しかありません。

ちょうど2020年が次の10年へのスタートとなります。政党に所属せず、エネルギー政策をはじめ自らの政策一本で活動していますが、ご支援くださる皆様との信頼関係の中で、江東区の身近な代表者としてもご期待に応えられるよう努力してまいります。ラグビー部出身の国会議員として、昨年のラグビーW杯2019日本大会は、大いなる感動の連続でした。直前まで世界1位だったアイルランドを破った試合は現地で見学し、試合終了後は文字通り号泣しました。いくら何でもアイルランドには勝てないだろう…そう考えていた自分がいました。

しかし、不可能は、不可能と思った時に、不可能となります。本気で信じ、努力を重ね、チームをつくり上げた結果が、アジアで初めてのラグビーW杯での日本代表の世界を再び驚かせた活躍だったのです。

不可能とは、自らの力で世界を切り開くことを放棄した、臆病者の言葉だ。

不可能とは、現状に甘んじるための言い訳にすぎない。

不可能とは、事実ですらなく、単なる先入観だ。

不可能とは、誰かに決めつけられることではない。

不可能とは、可能性だ。

不可能とは、通過点だ。

不可能なんて、ありえない。(モハメド・アリ)



極端な悲観論や絶望感からくる暴論がはびこる今、あきらめとニヒリズムが支配する今、「不可能を可能にする」を信条として、日本と世界をより良い場所にするために、本気で汗を流して働く政治家が必要です。私はその1人になりたいと思います。

平成から令和へと移り変わり、天皇陛下の御即位を迎えた年が、くしくも私自身も国会議員10周年の節目でした。苦難も続くかもしれませんが、モハメド・アリが黒人ボクサーとしてはねのけたハンディキャップには比べられるべくもありません。どんな苦難も糧にして、「できっこない」と言われるような不可能に挑戦してまいりたいと思います。



アイルランド戦にて。感動の一戦！
試合後、お隣りのアイルランド人サポーターと国旗の交換をしました。

江東区議会第2会派・民政クラブの皆さん



江東区議会議員
白石忠夫



江東区議会議員
新島つねお



江東区議会議員
福馬えみ子



江東区議会議員
徳永まさひろ



江東区議会議員
いたつ道也



江東区議会議員
鬼頭たつや



江東区議会議員
鈴木あやこ

江東区議会議員
じんのゆずる



江東区議会議員
吉田要



江東区議会議員
やしきだ綾香



江東区議会議員
酒井なつみ

